

## 琵琶の如

「びわのごとく」

立命館守山中学校・高等学校

立命館守山高校の部旗は、水色の地に白い文字で「琵琶の如」と書かれています。

平成18年(2006)守山市立守山女子高校の設置者が守山市から学校法人立命館に移管されて立命館守山高校となり、翌平成19年(2007)に中学校が開校して現在の立命館守山中学校・高等学校となりました。

剣道部は、守山女子高校時代から活発に活動していましたが、そのころ剣道部を指導しておられた森幸久先生が、日本一大きな琵琶湖を誇りに思い、剣道人としてそして人間として日本一を目指すようなスケールの大きい人に育ってほしいという願いをこめて、この言葉の部旗を作られたと聞き及んでいます。設置者が変わり立命館守山となっても、守山女子剣道部時代の精神を引き継ぐという意味で、同じ言葉を用いて校名だけ書き換えた部旗が新調されました。

淡水湖のことを古くは「淡海(あほうみ)」といい、奈良の都に近い琵琶湖を「近淡海(ちかつあほうみ)」と呼んでいました。滋賀県の古い国名を「近江(おうみ)」というのはこのことにちなんでいます。

琵琶湖は400万年の歴史をもつといわれ、日本はもとより世界でも珍しい古代湖で、ここだけにしか見られない固有の生物が60種以上も棲息しています。

古来、多くの歌人や俳人などが詠み讃えたすばらしい景色、豊富な水産物、古くから開発された湖上交通など琵琶湖によって人々は多くの恩恵を受けてきました。また、この湖は、近代になって滋賀県内のみならず近畿1,400万以上の人々が水道水として利用する貴重な水源でもあり、滋賀県の象徴そしてこの地に住む私達の誇りです。剣道部員の皆さんは、この部旗に励まされて、自ら誇れる人となるよう日々錬磨していることでしょう。